

## 1 事業内容

団体名	特定非営利活動法人まなざしの和
事業名	美原から釧路活性化プロジェクト
課題テーマ	地域経済の活性化、地域を担う人材育成
事業目的	<p>美原地域は医療施設や金融機関、飲食店やドラッグストア、釧路大規模運動公園も隣接されている恵まれた立地条件で何よりも地域の中心に大型駐車場を兼ね備えたショッピングセンターがある唯一の地域である。そこで釧路管内ならび道東の食品産業を通じて釧路（道東）の生産者、加工者、作家、地域の学生、地域市民が連携し「地域の食文化と産業の多様性、新たな学びの試み」を目的としたイベント、災害時の訓練を開催し美原の良さと安全性を広く知ってもらい釧路、美原が共に未来に繋がる持続可能な地域経済発展に貢献することを目的とする。</p>
事業内容	<p>1. 釧路みはらマルシェ 月に1回美原ショッピングセンター内にて魚、肉、野菜、加工品などのミニ市場を開く。釧路を中心とした道東の生産者と連携し釧路の魅力ある特産物を販売することで美原への関心が高まる。また、規格外などの本来廃棄される生産物を販売することでSDGsへの関心も高める。釧路公立大学ボランティア部と共に企画から運営まで一緒に行うことで地域活動への参加意欲を高め、地域とのより良い絆を深めながら地域の人材の育成、活性化、若返り化のきっかけをつくる。</p> <p>2. 釧路みはらフェス 年に1回マルシェの日に合わせて美原ショッピングセンター内にて子供も楽しめるスポーツイベントを開催する。駐車場の一面にトランポリンなどの体験コーナーを設置し身体を動かす重要性和楽しみを実感してもらう。その他、大人から学ぶ昔おもちゃ遊び広場を開催し竹馬やけん玉などを体験してもらう事で日本の歴史を感じつつ文化を楽しみながら多世帯の交流を促進する。</p> <p>3. 釧路みはら de 防災マスター ～災害時助ける側になる為に～ 年に1回釧路市立美原小学校・釧路市立美原中学校を使用し災害時の避難訓練を行う。避難者の受付・誘導方法、簡易トイレ設置訓練、段ボールベッド組立訓練等を行い避難場所の運営側としての学びの場を提供する。釧路市立美原中学校の生徒も一緒に訓練を行うことで有事の際にも助ける側としての意識を持</p>

	<p>つ人材を育成していく。次年度以降は釧路市社会福祉協議会よりレスキューキッチンを借り炊き出し訓練なども行う。</p>
<p>事業展開</p>	<p>1. 釧路みはらマルシェを9/13・10/18の2回開催した。出店店舗数は9/13は8店舗、10/18は9店舗でした。</p> <p>2. 釧路みはらフェスを9/13にマルシェと同時開催しました。全国で活躍する「TEAM NFS」のライダー6名がアクロバティックなデモ走行が行われ、迫力あるパフォーマンスに多くの観客が歓声を上げていました。さらに、COOL観光大使の田川保信様を審査委員長に迎えた「カラオケ大会」も開催され、会場は大いに盛り上がりました。参加者は小学生から70代までと幅広く、世代を超えて音楽を楽しむ姿が見られました。会場周辺では記念撮影や体験ブースも設けられ、地域の新たな魅力発信とにぎわい創出につながりました。</p> <p>3. 釧路みはらdeサバイバルを9/6 釧路市立美原小学校・釧路市立美原中学校で行いました。当日は釧路市防災危機管理課、美原地区連絡協議会、美原地区防災推進協議会、釧路公立大学ボランティア部くしもり！釧路市防災士ネットワーク、美原郵便局、美原児童館と協同し、美原の防災力や関係団体との連携を強化しました。</p>
<p>成果目標の達成状況</p>	<p>釧路みはらマルシェ来場者合計700名を目指していましたが、9/13は約500名、10/18も約500名の方が来場されました。</p> <p>参加したい生産者、加工者、作家さんの出店数は、9/13は8店舗、10/18は9店舗でした。次年度20店舗以上に増やします。</p> <p>美原商業地区に空き店舗がある事を美原内外の方々に広く知ってもらい新たな出店者を見つける目標では、美原以外の来場者が半数以上おり、美原の実情を広く広報することが出来た。</p> <p>釧路市立美原小学校・釧路市立美原中学校で行った防災授業では、釧路市防災危機管理課、美原地区連絡協議会、美原地区防災推進協議会、釧路市防災士ネットワーク、釧路公立大学ボランティア部くしもり！美原郵便局、美原児童館と協同し、防災や災害時の訓練等を行い美原の防災力や関係団体との連携をしました。美原小・中学校で開催した避難訓練には地域参加者は約100名おりました。小学校ではレスキューキッチンも使用し児童や地域住民に豚汁の炊き出し訓練も合わせて行いました。</p>

波及効果の達成状況	プロジェクトにより今まで購入できなかった釧路の特産物や生鮮食品などを購入する事が出来た。それにより活性化された地域経済が地域内の他の産業にも良い影響を与えた。また、地域住民が一体となってさまざまな活動をする機会が増えることにより地域コミュニティの結束が強化されました。
実施体制	特定非営利活動法人まなざしの和 (6名 内理事長1名 監査2名)
連携した市担当課	無 ・ (有) (こども保健部 こども育成課) (総務部 防災危機管理課) (産業振興部 商業労政課)
連携した市担当課が果たした役割 (※有の場合)	こども保健部こども育成課 ・竹馬やけん玉の貸出 総務部 防災危機管理課 ・避難訓練当日の講話や講師 産業振興部 商業労政課 ・駐車場使用箇所の適正管理

## 2 支出決算書と支出内訳

(収入)

費目	決算額 (円)	内訳
輝くまちづくり交付金	200,000	
出店料	26,000	
自己資金	415,789	
合計	644,597	

(支出)

費目	決算額 (円)	内訳
対象経費		
謝礼	30,000	講師謝礼
使用料及び賃借料	47,000	カラオケ機器使用料・貸しテント
委託料	250,000	チラシ作成、モトクロスイベント委託
消耗品費	3,424	容器
小計	330,424	
対象外経費		
謝礼	300,000	臨時スタッフ謝礼
食料費	5,788	飲み物・レスキューキッチン用食材
景品代	8,385	景品代
小計	314,173	
合計	644,597	